

路傍穿井

〔延喜式雜十〕凡諸國驛路邊略中若無水處量便掘井

山上穿井

〔續日本紀文武〕四年三月己未、道照和尚物化。○中于時天下行業之徒、從和尚學禪焉。於後周遊天下、路傍穿井、諸津濟處儲船造橋。

修井

〔明月記〕建保元年六月廿日、今日修復井云々、貧屋井塞、不及修造送旬月、汲冷泉而井云々、下官無處于成敗不知家途事、今日雜人共稱日次宜由相營云々、廿三日、井終功云々、令修土已祭、

ほりかねの井、走井はあふさかなるがおかしき山の井、さしもあさきためしになりはじめん
あすかる、みもひもさむしとほめたることおかしけれ、玉の井、せう志やうゐ、さくら井、后まちの
井、ちぬきの井、

〔藻鹽草水五邊并〕

石井山城中御門の南、東洞院山西江いさら井未勘いはしろの井紀州いづみ井備中五十師御井勢
別有、同名相坂、但志賀の山也。いさら井未勘いはしろの井紀州いづみ井備中五十師御井勢
山から錦をおりてはる、山かも、稻井^{同右}なはあるの水はいな井にまか走井近江あふさか
づけひ伊勢に有^ニ同名、それ堀難井武藏入間郡うれし常盤井城州春日小鹽井紀州但いせと云説有
にはみゆき浦さびて、堀難井武藏入間郡うれし常盤井城州春日小鹽井紀州但いせと云説有
雲の尊天に登て天の河の水を玉鉢に入て下て、是をかつして置給を忍穗井と云也、是にて外宮
の供御を備る也、不増不減の水也と云々をしてほぬをけふ若水にくみそめて御あへたむくる
春は來にけり此歌も其追都美井いせ大回山井あふミ昔興井奥州物の名忘井いせわかれゆ
心歟又此御あへとは、大回山井ながらの興井にかくせり忘井くみやこのかた
の戀しきにいさむす鳴井三條南町東龜井播州有天王寺万代にすめる龜井の水にご玉井山城
ひ見んわすれぬの水鳴井三條南町東龜井播州有天王寺万代にすめる龜井の水にご玉井山城
江冰千とせをかれてむすぶ納涼松山吹竹原石井大和龍田の山玉かけの井近江たる井美のし
江どのかざし玉のゐと、字ありても、竹原石井五月雨の比、山玉かけの井近江たる井美のし